



● 小栗 恒雄 ●

◆上水道の断水事故の原因と対応は
 ⑥大地震での水道の断水事故は理解
 できますが、なぜ今回は大雨により
 断水したのか、断水原因と世帯数及
 び対応についてご答弁ください。

⑤8月14日午前7時頃、土岐津町高
 山地区の土岐津橋左岸側で、水道配
 水管漏水による断水が発生しました。
 断水世帯数は泉町、土岐津町、肥田
 町の約4千6百世帯です。断水の原
 因は、破損した水道管は、昭和40年
 以前に布設したダクタイル鋳鉄管で、
 管径250ミリで老朽化による配水
 管の破損と考えています。ただし、
 当時は大雨洪水警報が発令され、土
 岐川の水位が急上昇しており、大雨
 との因果関係は不明であります。流
 水等が接触した可能性は考えられ
 ます。断水は午後4時30分時点でお
 おむね解消しましたが、排泥作業は
 3日間、昼夜継続して実施し水質の
 確保に努めました。

◆夏休み明けの教育現場について
 ⑥昨年は運動会や音楽会及び修学旅
 行等が縮小や中止になりましたが、

今年の対応についてお答えください。

⑤2学期以降の学校行事につきま
 しては、緊急事態宣言下であることを
 鑑み、全ての小・中学校で9月中旬
 に実施予定の修学旅行や運動会等を10
 月以降に延期することを決定してお
 ります。また、その修学旅行や校外
 学習につきまして、近場での実施で
 あるとか日程の短縮・変更などを各
 学校で検討中でございます。

⑥家庭でのオンライン授業において
 対面授業と同じ程度の先生とやり取
 りができる双方向の授業は可能であ
 りましようか、お答えください。

⑤夏休み小学校5年から中学3年
 生までは、全員タブレットを持ち帰
 りまして、学習オンライン登録日等
 を実施し、端末で学習ができるよう
 に、オンラインで家庭練習を保護者
 の協力を得てやってまいりました。
 また、教職員も校内研修を各学校で
 何回も練習をさせてもらい、仮に実
 際に学校へ何日も出られなくなつて
 も、一日の始まりにまずオンライン
 で朝の会を一齐にやり、その後状況
 に応じ午前の2時間程度の授業は学
 校で構成できるよう各学校で準備し
 ています。オンラインだけでは補完
 できないところは、場合によっては
 学習プリントも併用しながら学習を
 継続して学びを保障し、常時精度を
 高めていきたいと考えています。

《第4回定例会一般質問》

●印は議員の意見・提案



● 杉浦 司美 ●

◆事務処理ミスの対応について
 ⑥このところ発生している事務処理
 ミスは、市政運営に対する市民から
 の信頼低下につながりかねない事実
 であると思うが、市長はどのように
 感じてみえるのか。

⑤行政に対する信頼の低下につな
 がりかねないミスが相次いだことに
 関して、市民の皆様は深くお詫び申し
 上げたい。事案の原因究明と、事務
 処理手順の確認、見直しを進めてい
 るが、現状の分析としては、アナロ
 グ的な事務処理とデジタル化された
 事務処理が併存・共存している業務
 を中心に事務処理ミスの発生が見
 されている。事務の洗い出しと改善
 を行い、引き続き、全庁的な取り組
 みとして、再発防止に努めてまいり
 たい。

⑥市長がイニシアティブをとり、全
 職員一丸となって事務処理ミスを起
 こさないよう、チェック機能を構築
 するため、内部統制制度を導入する
 考えはないか。

⑤内部統制制度の導入については、

他市の状況なども注視しつつ、継続
 的に検討していきたい。当面、危機
 事態への早期対応の観点から危機管
 理担当部署、コンプライアンスの観
 点から総務担当部署、業務効率化の
 観点から行政経営担当部署、適正な
 服務遂行の観点から人事担当部署等
 が連携をしながら、事務の適正な執
 行を確保することについて引き続き
 全庁的に取り組み、既存の体制の下
 で有効な対策を講じたい。

◆自主研修グループについて

⑥昨年度より、自主的に研修や研究
 をする職員グループの結成を奨励し、
 その活動を支援する制度を導入され
 ている。職員が自発的に勤務時間外
 に行政課題についての研修や研究に
 取り組むものであるが、市長は、自
 主研修グループの活動について、ど
 のように期待されているのか。

⑤職員が学ぶ姿勢を前面に出すとい
 うのは大変なことであり、そう
 いう文化に育てて行きたい。今後よ
 り多くの職員が制度を利用し、自主
 研修グループを立ち上げることで、
 グループの活動が職員の自己研鑽の
 場として広く浸透して行き、新たな
 政策提案が導き出され、市政運営に
 反映させるなど、自主研修グループ
 の活動がより高い次元に成長するこ
 とを期待している。



安藤 学

◆デジタルトランスフォーメーションの取り組みについて

問DX推進の意義、目的について。

答 自らが担う行政サービスについてデジタル技術やデータを活用して住民の利便性を向上、デジタル技術やAI等の活用により業務効率化を図る。人的資源を行政サービスの向上、行政の効率化、高度化と多様な主体との連携により民間のデジタルビジネスなど新たな価値が創出される。DXとは単なるデジタルビジネス化ではなく、デジタル技術を活用して課題を解決するための改革でDXを手段に人々の生活を豊かに、安全に、安心に、便利にすることが目的です。

問DXの取り組み事項と取り組み期間は。

答 自治体情報システムの標準化、共通化が令和7年度。マイナンバーカードの普及促進、行政手続のオンライン化、セキュリティ対策の徹底が令和4年度末。AI、RPAの活用促進、テレワークの推進については、目標時期は示されていない。

問DXのメリットについて。

答 AIなどを活用した業務処理の自動化が進めば、労働生産性が向上、職員の働き方改革につながり人的資源を企画業務や相談業務など対人サービスや、デジタル技術、AIを活用し政策立案や地域課題の解決になると考えている。

問デジタル人材の確保、育成は。

答 外部人材の確保もあるが、職員の課題解決能力、デジタル知識の向上等、職員全体のスキルUPが重要で派遣やOJT、研修等により土岐市のデジタル化推進に係る人材の育成確保をしたいと考えている。

◆SDGs関連について

問持続可能な開発目標の対応は。

答 カーボンニュートラル、脱炭素に向けた地球温暖化対策は、市が管理する施設全体の温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいる。

今後については、市民や事業所に對して削減計画の策定も必要になると思います。エネルギー活用、電力調達、食品ロスやプラスチック問題への展開、実効性の高い計画策定後に進行政管理しやすい仕組みの策定を目指します。SDGsですが、7番エネルギーをみんなにそしてクリーンに、13番気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策措置を講じるという取り組みへもつながってくるものと思っております。

《第4回定例会一般質問》

●印は議員の意見・提案



小関 篤司

◆小・中学校の感染症対策について

問小・中学校におけるデルタ株、変異株に対する認識について、それに伴う対応、対策はどうか。

答 児童・生徒の感染状況について、変異株が大半を占める現在は、以前と比較しても明らかに感染者は増加しています。変異株は感染力が高く、重症化リスクも高いという認識です。学校の対策を強化することで、分散登校までしなくても、通常でやっていけるだろうと考えています。コロナハラスメント、児童・生徒、保護者の方への誹謗中傷が決してなされないように、児童・生徒への教育、保護者へのメール、通信等をお願いをしています。

◆放課後教室の感染症対策について

問緊急事態宣言時も含めて、受け入れ、運営基本方針はどうか。

答 就労という枠組みに関わらず全児童に對して実施しています。

問夏休みの利用状況はどうか。

答 今年度と令和元年度の比較で、土岐津と妻木が約70%、駄知が55%、

下石が50%と大きく減少しています。コロナ禍で利用の自粛をお願いしていること、保護者自ら参加を控える方もいると考えています。

問利用自粛の対応の経緯と理由は。

答 コロナ禍において、3密回避で昨年度からお願ひしています。お願ひで参加を拒むものではありません。受け入れ体制は、密にならないことが必要ですが、難しいのでパーティションなども活用し感染防止に努めています。人員確保は臨時指導員を夏休み採用し対応しています。放課後教室の考え方は学童と違います。家庭事情はあると思うが、それぞれが判断し、自粛頂ける方はお願ひしたいと考えています。

問通常通りの運営ではコロナ禍では厳しいのではないかと。

答 (教育長) 議員からの話しはあらかた承知していますが、細かな取り決めは教育委員会ではしていません。室長中心の指導員のその時に応じた判断での対応を原則としています。学童保育的な内容で面倒をみるよりも、広い視野で見ているのが土岐市の良い部分と捉えています。

●コロナという事態で判断は教育委員会が基準、方針を定めて対応に当たって頂きたい。